



成隣だより

令和5年11月30日
第8号
昭島市立成隣小学校
校長 松川 靖弘
TEL 042-541-0068



HPはこちら

いとをかし ×まじエモい

校長 松川 靖弘

「いとエモし。 超訳日本の美しい文学 koto 著」
電車の広告をぼんやり眺めていると、目に飛び込んできた美しい絵。くすぐられるタイトル。早速購入して一読。いにしえの人たちが伝えたかった思いに触れたような気がしました。伝えたいことに心を寄せたひと時でした。

ふわふわとした言葉だから… 理解しようとしないう自分がいた

著者の koto さんは10代の頃、国語の時間に習った古語「をかし」の訳「なんとなく趣のあること」につかみどころのなさを感じ、考えるのをやめたそうです。そして、社会に出て経験値も増えた今日この頃。「をかし」は「ああ、『エモい』ってことか」と自身の言葉として理解し、1200年前から伝え残っている和歌や随筆・物語をみずみずしい感覚の言葉で現代語訳しています。私自身も意味がはっきりと分からないふわふわとした言葉で書かれた古典の授業は思考停止の学生でしたが、偶然、この本に出会い、美しいイラストと、今を生きる私たちの感覚に寄せた言葉で綴られた文章の力は、私に、1000年前の人々が伝えたかった思いに心を寄せるきっかけを再び与えてくれました。同時に、意味や感覚が分からない言葉だからといって理解しようとしなかった当時の自分に気が付きました。

春はあけぼの

『枕草子』一段より 清少納言

春のエモといえは、夜明けね。

まだまだ薄暗いところから、
だんだんと、東から日がのぼってくる。

ここよ！

このとき、山の、際があるじゃない。
山と空の境目っていうのかしら。

その山際に、細長い雲が
スーッとかがつてるのを想像してみて。

「いとエモし。」 koto 著
(サンクチュアリ出版 P250 抜粋)



「何かあったの」 先ずは、心を寄せて

「ふれあい月間(11月)」の取組として、友達を嫌な思いにさせる言葉は使わない。嬉しくなる言葉を使って生活しようという言葉遣いの指導をしました。子供たちの学校生活を見てみると、特徴として直感的・反射的な言葉が多く交わされています。「まじ」「やば」「うざ」「きも」などです。意味合いも広く、場面によっては肯定的にも否定的にも使われているようです。「きも」「うざ」(ネガティブな印象)などは、相手に発すると不快を与えることを教え、別の気持ちの伝え方を指導しています。注意したいのは、頭ごなしに「言葉狩り」をしないことです。「きも」「うざ」は、子供が『驚き』『受け入れられない感情』を反射的に口にしている場面が多いです。ご家庭で耳にしたときは、先ずは、「何かあったの」「どうしたの」の一言を返して心を寄せてみませんか。

「何かあったの」「別に。(心配かけたくない/どうせ話しても…)」 そうならないために

456年生を対象に昭島市立小学校児童アンケートを取りました。子供たちが楽しく安心して登校できる生活の基盤づくりは、保護者の皆様のご協力あつてのことであると改めて感謝する結果でした。詳細は次号でお伝えいたします。一方で、気になる結果もありました。質問『こまったことがあったら相談してみようと思う大人はいますか』 2人以上いる71% 1人いる17% いない12% 30人学級の3人は相談してみようと思う大人がいらないと答えています。冬休みに入ります。「そんなことがあったの」と機を逃さず、お子さんに心を寄せる言葉がけを大切に！